



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2011年8月1日

8月号 第115号

奈良・人と自然の会

会長 阿部和生



- * 特別寄稿「里山の変化に思う」
- * 「お元気ですか」・奈良県環境保全功労賞受賞
- * 癒しの散歩道・行事報告＜6月オプション・7月例会＞
- * ならやまくレポート・自然観察・ゲンジボタル・ジャコウアゲハ＞
- * 自然俳句・ゴミを土に戻す魔術師「昆虫講座」⑩
- * とりシリーズ・「自然をいただきま〜す」・地域情報・「山桜の回想」
- * 8・9月の行事案内・「樹木研修会」「龍王山」「額井岳山麓」
- * 今月の表紙・ペン画によせて

		1
	2	3
3	〜	5
6	〜	9
	10	11
	12	13
14	〜	16
		17

里山の変化に思う

森林ジャーナリスト 田中淳夫

私は生駒山の大阪側に生まれ育ち、現在は生駒山の奈良側に住んでいる。だから「生駒山の裏も表も知っている」と豪語するのだが、子供の頃に遊んだ生駒山と現在の山は、随分と違ってきた。もっとも大きな変化は、景色だ。子供の頃に登った生駒山は、尾根近くになると草原が広がっていた。しかし、現在は頂上の遊園地の周りまで完全な森林になっている。それも落葉樹林から照葉樹林へと変わってきて、かなり暗い森が増えた印象がある。

それだけではない。数多い棚田が竹林に覆われたり、段々畑が草ぼうぼうのブッシュになった様子を目にすることが増えた。畦道によく咲いていた野花が見られなくなり、なじみのある昆虫も姿を消してしまった。ため池の魚も、いつのまにかブラックバスばかりになっている。藁葺き屋根の家はなくなり、四季の行事も行われなくなった。

生駒山は典型的な里山だが、その世界は人が常に維持管理することを前提に存在する。人の営みが縮小したり妙な手を加えたりすると、里山も変貌する。景観は悪化するし、農林業と結びついた里山の文化も消えていく。

そのどこが悪いのか、という意見もあるだろう。そんな変化も自然ではないかと。そのとおりだ。変わってしまった景観も自然である。それが良いとか悪いとかというのは人間側の勝手な思いにすぎない。

ただ、これまでの目に優しく安らぎを与えてくれた景観が、あまり好ましくない景観に変わったら、人はあえて近づこうと思わなくなるだろう。身近な自然である里山への興味が失せたら、自然そのものに対する関心も薄れるに違いない。

関心のない自然が、どうなっても興味は持てない。仮に目の前で破壊され始めても、あえて異議を挟む気になれないのではないか。汚い川や池は埋め立てられても平気だ。歓迎するかもしれない。見た目の悪い森が伐採されても、日当たりがよくなり、虫が出なくなると喜ぶかもしれない。そして気がつけば身近な自然はなくなっていく。

そうなった時、人の心はどうなるだろう。日々目に入る景色は、無意識に情操に影響を与えるはずだ。

里山は、千数百年の長きにわたって日本人の生活になじんできた世界だ。そんな里山がなくなった時、日本人の精神も文化も変化する可能性がある。それは好ましい方向だろうか。いや、それだって人間側の勝手な思いだろうか……。



田中敦夫氏（森林ジャーナリスト・1959年生）

多彩な取材から 現在の森林・林業の現状と解説・提言の書を世に問うたり、講演活動による啓発にも力を注ぐ 気鋭の森林ジャーナリスト。『「森を守れ」が森を殺す』『森林からの日本再生』 改定増補版「今里山が必要な理由」等多数。増補版は、『一読目からうろこ！』と書評にありました。今回は、特別に寄稿をお願いしたものです。（阿部和生）

シルバー随筆 お元気ですか！

お元気ですか

杉本 登

私は昨年から奈良県西部の某自治会の自治会長をしている。我が自治会も高齢化率は36%と非常に高いので、高齢者の方々の健康増進と生きがい作りが重要な課題である。私は自治会の老人会や同好会の場で二つの提案をシルバーの皆さんにしている。一つは車は使わずにできるだけ歩きましょうということ。二つ目は積極的にボランティアをしましょうと提唱している。

足は第二の心臓といわれるぐらいで、歩行はダイエット効果だけでなく、心肺機能強化や脳の活性化などほとんど全ての成人病に効果がある。ボランティアのいいところは話す仲間ができることである。高齢者になり年金暮らしになると社会との接点が少なくなり、人としゃべる機会が少なくなる。TVばかり見ていればコミュニケーション能力も失われてボケるのはあたりまえである。特に高齢者の1人暮らしは話す人もいないので積極的に外に出てしゃべる機会を増やすことを勧めている。どちらも習慣化するとおっくうでなくなるし、むしろ楽しくなるのである。



今思うこと



甲斐野 幸一

皆さんこんにちは、会設立10年が過ぎまして、一区切りのごとき10年を振り返りますと、余りお手伝いできておりませんが、多少の紆余曲折があるにせよ皆さん仲間たちの自然を愛する気持ちが全てのことを前へ前へと良い形で進めたようです。そして多くの自然との触れ合い、多くの仲間、人々との出会いがあるように思います。

6年前にチョットした油断からキノコ中毒による臨死体験をさせて頂いた身にとっては、今を生きているのではなく、生かしていただいているとの感を常に思う毎日であります。春の草花の香りや新緑に生命の偉大さを感じ、さえずる小鳥に声を掛けている自分を笑っています。

ほんの些細なことが大きな変化をもたらす事があるのだとの教訓を胸に、大地を踏みしめ巨樹との出会いに胸ときめかせ、微々たることでも自然環境保全に役立ちたいとの想いに、これからの時間を楽しみに歩いております。(仙人ではありませんが！)

さてさて数百万年を生きてきた人類はどこへ向うのでしょうか。



平成 23 年度奈良県環境保全功労賞を受賞



「奈良・人と自然の会」は、23 年 6 月 22 日奈良県庁知事室で平成 23 年度「奈良県環境保全功労賞」表彰を受けました。長年にわたる自然環境復活・保全活動や環境学習・環境教育の推進 等に関して顕著な功績があったと評価され、受賞となったものです。奇しくも今年度は、「会」創設 10 周年を迎える記念すべき年であり、こうした評価・栄誉をうけたことは、会員諸氏の高い志と実践活動の賜物であると思われま。

阿部会長、川井顧問、古川幹事が授賞式に出席し、他の 2 事業所、1 団体、1 個人と共に受賞しました。荒井知事から当会のこれまでの活動に対しねぎらいのお言葉をいただき、「ボランティア活動を重視したい」とのお話がありました。



ならやまで賞状を囲んでみんなで喜びました

<癒しの散歩道>



夏の匂いは雲にのって

谷川 雅邦

季節の大地にはそれぞれの顔がある
忘れかけていた新しい夏の光と香り
人の心を虜にする自然の匂いとともに
ほどよく大地にブレンドした自然の味
照らされる太陽に天に届けと向日葵が笑う
雲ひとつない碧い空に心は晴れておどり
天空を駆け巡る飛行機雲の行方に眼が泳ぐ
乾く喉に川のせせらぎで水遊びを楽しみ
木陰を求めて元気に飛び交うつばめたちよ
さあ我らの夏よ明日に新しい思い出作ろう

6 月度オプション行事 柳 生 街 道

6 月 28 日は心配された降雨もなんのその快晴そのもので 35 度の猛暑となりましたが、21 名の参加を得て予定通り行われました。J R/近鉄奈良駅よりバスで 50 分ゆられたのち柳生上バス停にて下車。東海自然歩道を忍辱山、円成寺方面に向かって出発しました。

もと柳生藩財政の立て直しをした家老小山田氏の屋敷であったが終戦後山岡荘八が所有、後に奈良市に寄贈されたという旧柳生藩家老屋敷での朝の挨拶ではシニア自然大学校会報の案内を見て面白そうだったので参加したが柳生は 40 年前に会社の同僚と来て以来という方、奈良・人と自然の会への入会を考えているが一度体験したいので参加したという方もみえていました。柳生一族の墓地がある芳徳寺、柳生十兵衛が 13,600 人の門弟を鍛えた道場であった正木坂道場を経て現在は桜を中心とした公園になっている柳生陣屋跡で昼食。記念写真を撮りました。



はじめの計画ではここで柳生花しょうぶ園に入り、途中の大柳生バス停まで歩くグループと最後まで歩くグループに分けることを考えていたが、猛暑を考え全員大柳生バス停までとし、菖蒲園で 500 種類の菖蒲と

50 種類あるというあじさいを楽しむこととしました。

ほうそうよけに作られたという 3m の石仏があるほうそう地蔵でしばし休憩、そしてこのコースでの最大の難関である急激な上りと下りをこなし、柳生の殿様が馬上から洗濯中のおふじと頓知問答の末、妻に迎えたといわれるロマン井戸（おふじの井戸）、その本堂が鎌倉中期（重文）のモデル的建物であるとされる南明寺、夜支布山口神社を経て大柳生口からバスに乗り、奈良駅に帰りつきました。奈良駅近くの反省会では今回はバスの時間と本数の制限があったとは云え、せわしいスケジュールで自然観察に時間をさける余裕がなかったこと等指摘もあり、今後の例会手配の参考にしたいと考えます。参加のみなさん本当にお疲れ様でした。

（担当：菊川、板橋）（文責：板橋）

7月13日(水) 9時30分 近鉄「元山上口駅」集合 快晴 幹事: 木村 裕・豊島すみ子
参加者名: 川井、川岸(美)、小森、小嶺、永渕、勝田(2)、木村、豊島 (9名参加)

アツい!アツい!こんな日は参加少ないわね

暑い日差しの中、元山上口駅を出発しました。
私が今日参加した1つの目的は虫が好きでなく、
名前もほとんど知らないの、虫博士の木村さん
からいろんな話を聞いて少しでも虫と近づき
になりたいと思ったからでした。

細かいタイムスケジュール表をいただいた。
これから約10キロと身構えましたが、ほとん
どが樹陰の中だと聞いてほっとしました。

少し歩くと早速フクラスズメの幼虫に出会
いました。

見るからに毒々しい!!



幼虫にヤブマオウの葉がほと
んど食べ尽くされていました。
これは今までよく見てい
た虫でしたが、初めて名前が
分かりました。これには毒は
ありませんとのことでした。

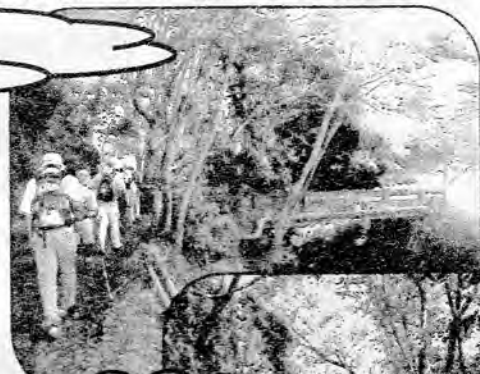
1番危ないのがチャドクガの幼
虫だそうです。

素そ
手れ
でも

次に出会ったというよりもアリジゴク
の穴からアリジゴクを掘り出してみ
んなに見せてくれました。紙の上に
載せてみんなで見ました。やはりあ
んまり気持ちのいいものでは
ないですね。

カラスアゲハが優雅に飛んでいました。日に
当たって黒の背が紫色に光ってきれいでした。

清滝石仏群で滝の近くの消えかかった線刻仏
を見ました。草の陰にもあると教えていただき
ました。もう少しすると草に覆われて見えなく
なってしまうと思いました。



本当にこんなに
涼しいところだ
ったのですよ



オオムラサキを一人だけが見つけた。

みんなうらやましいなあと思っていました。

千光寺(役小角が山上ヶ岳の前に修業したと
ころで元山上という)にお参りました。

鳴川峠で昼食だった。ここは蚊が多く虫よけ
が必須です。虫博士には寄り付かないようで、
平気な顔でした。誰かがシャクトリムシを見つ
けました。早速木村さんがまた素手でつかんで
みんなに「かわいい顔してるでしょ」ですつ
て!!そんなわけないですよ。

食事の後の登りはしんどかったけど、ずうっ
と日陰だったのでよかったです。途中大阪平野
が見えるところが2か所ほどありました。下り
もゆっくりで、枚岡神社の階段を降りたところ
が枚岡駅でした。暑いアスファルト道を歩いて
駅に行くと思っていたので、最後まで得をした
感じでした。

いい汗かきました

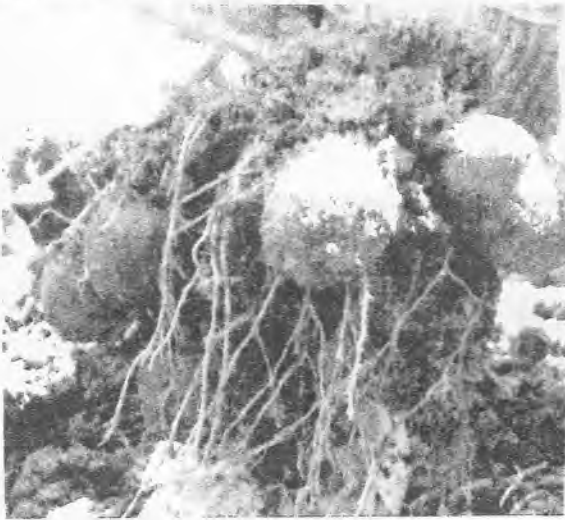
幹事さん楽しく、涼しくすごせました。

本当に有難うございました。(文:勝田 緑)

ならやまプロジェクト・レポート 23年7月

6月23日(木) 晴れ 参加者44名

本日はジャガイモ祭り！イモ畑の2/3を収穫する。ダンシャク、キタアカリ、アンデス、メイクインと4種類のジャガイモがドッサリ。お昼は、とれとれのジャガイモで作ったカレーライスが大好評裡に完食。残ったイモも即日完売となった。



里山グループはコナラのナンバリングと補虫テープ貼り。ならやま自然の森のパトロー路の笹刈り。景観グループは、吉岡先生を迎え、自転車道沿いの植樹の現地調査と打ち合わせをした。

6月22日には奈良県知事から「奈良県環境保全功労賞」の表彰を受け、シニア自然大学から取材のため広報担当者など3名の来訪があった。



6月30日(木) 晴 参加者23名、
本日は雨天予備日。コナラの樹径測定開始。

7月7日(木) 雨天で活動中止
茄子クラブ有志は雨の中、茄子の摘果、

7月14日(木) 晴れ 参加者39+17名

7月～8月はサマータイムを実施。活動は午前中のみを原則とし、8時からの活動も可とする。

佐保台小学校5年生の「田圃の生き物観察会」稲の分蘖(ぶんけつ)、ヤゴ、ドジョウ、アメンボを見つけて記録した。景観グループは「彩りプロジェクト」3号地の笹刈りに着手した。



7月16日(土) 晴れ 参加者 25+10名

教育実習生10名が参加して、コナラの樹径測定およびシイタケのホダギの天地返しに従事。農園では、夏草との戦い、里芋畑への灌水など水枯れ対策と地道な努力が続く。

景観グループは刈払機7台を総動員して、植樹予定地の笹刈りを展開、計画のほぼ2/3を完了。



(藤田 記)

ならやま里山林自然観察レポート

ならやま里山林花だより

吉村 さつき

7月14日、クズは日照りが強い時は、白っぽい葉裏を太陽に向けて反射させ、少しでも水分を保存する為の自己防衛をするそうです。

ハンゲショウは白く色づく葉が涼しさを感じさせてくれます。

開花期になるとあまり目立たない花の代わりに、茎上部の葉が付け根から白く変化します。非常に目立つ姿になり昆虫を呼んで受粉をしてもらいます。

受粉が済むと又元の姿に戻ります。

植物って凄いなと感心します。

名前の由来は、「半夏生」（太陽の黄経が 100° ）になる頃に花を咲かせるとか、葉の一部を残して白く変化する様子から「半化粧」と言われるそうです。

【草 花】 ツユクサ、エノコログサ、イヌビユ、
オオバコ、ヘラオオバコ

【花 壇】 百日草、ヒマワリ、ヒメヒマワリ、
タチアオイ、オミナエシ、ギボシ、
ハンゲショウ、ヒオウギスイセン

【ビオトープ近辺】 ママコノシリヌグイ、ヌマトラノオ、
セリ、カヤツリグサ、アメリカアゼナ

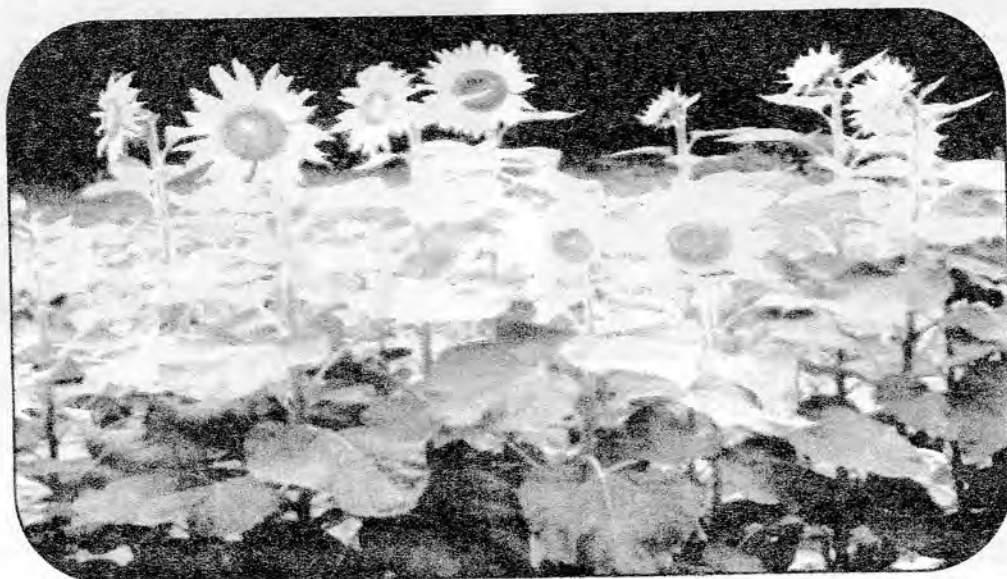


ハンゲショウ

ならやまの鳥だより

小田 久美子

7月11日。菊川さんと廻り、10種22羽確認。いきなりの猛暑のためか今季最低の数でした。



“ならやま”の 稲作とゲンジホタル

阿部 和生

この6月、前後10日間ほど“ならやま”で、ゲンジホタルが飛び交うのを感謝を込め眺めることができました。昨年は、生息確認でしたが、今年は着実にふえてきていると実感しました。見学・観察で止め 捕獲は、しないで見守ってほしいと切に願っています。

〔ホタルは自然環境のバロメータ〕陸生、水生にもかかわらず、ホタルが生息するということは、他の多くの生物が生息する上でも、好適な環境であり、そのことは人間にとっても優れた環境であるといえるようです。

休耕田や農薬を散布しない、あるいは制限している水田では、ホタルの発生数が多いという事実があります。水田や用水路に生息するカワニナの生息が大切なのです。

「ならやま」で実施している水田は、長年続いてきた稲作曆に近い栽培がおこなわれています。そしてその環境は、水田の下（しも）に湿地があり 通年湛水するビオトープが控えていて「水路が」がそれらを結んでいます。乾田にされても水生生物が育つ水田から、逃げ込むことのできる水路があり 居場所が確保されています。素晴らしいことです。

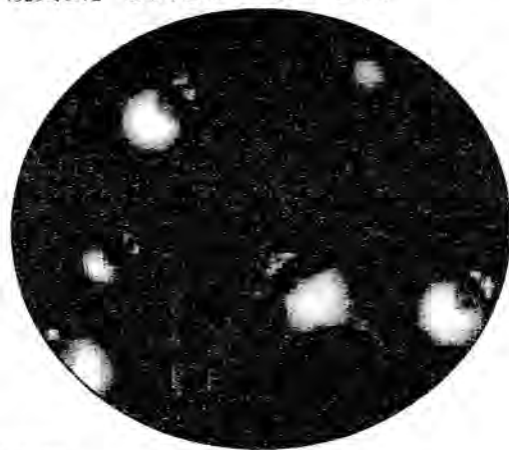
近代農業は、早生品種の導入による水田管理の曆が変化し 中干しの時期も早まり、冬は水を落とした乾田にするなどの栽培形態です。圃場整備は三面張りコンクリートや、塩ビ管の水路に代わり、栽培のときだけ導水する仕組み、作物だけを育てる装置が現実です。

トンボやカエルなどの生息に大きな変化が生じています。アキアカネなどのトンボは、稲刈後の水田（湿気のある）に産卵し、そのなかで

育ったヤゴは、初夏に羽化してトンボとなり山に入り秋にまた水田に戻るのです。水田が乾燥しては産卵ができません。カエルの場合もそうで、水稻栽培のサイクルの違いからダルマガエルやトノサマガエルが姿を消し、アマガエル、シュレーゲルアオガエルしか見られなくなってきています。用水池の縮小は、モリアオガエルの生息地を奪います。里山は、人手が入ってこそ豊かな生態系が保たれる そうした事が、回りまわって人間社会に よりよい影響をもたらす と考えられます。

かつての「田んぼ」が育んでいた多くの生物の存在に思いをはせ、さまざまな生態系が消え去らない様に 考えてみることも大切でしょう。「自然と共生する世界」は、里山の再生からも生まれると思います。生物の多様性、豊かな生息環境を整える事にも繋がります。

多くの人が和み 楽しみにした道端のホタルブクロが切り取られ持ち去られました。この無残さは、残念・悔しい限りです。ゲンジホタルは、いじめないで！捕獲しないで！と願わずには居られません。数年後に一带に乱舞する〔ホタル観賞会〕を開きたいものです。



参考文献

鷲谷いづみ著 自然再生（中公新書）
田中敦夫著 今里山が必要な理由（洋泉者）他

◇◇◇ ウマノスズクサとジャコウアゲハ ◇◇◇

菊川 年明

私の家は佐保川の畔にある。東大寺の大仏殿がほぼ真東に望め、昔あったという大仏鉄道の終点の大仏駅跡というところが近くにある。この辺りの佐保川堤には数箇所ウマノスズクサという蔓性の植物が生えているところがあり、これを幼虫の食草とするジャコウアゲハが見られる。ジャコウアゲハの幼虫はウマノスズクサかオオウマノスズクサしか食べない。この2種類の植物の生えているところは局限されているので、ジャコウアゲハの発生する場所も局限されている。

ウマノスズクサもジャコウアゲハも、いずれもかなり珍しい植物であり、昆虫である。この場所には奈良県野生生物保護委員会ほか2団体の連名で「ジャコウアゲハを守るためにウマノスズクサを刈らないように」との立て札が立てられている。しかし、河川管理上やむを得ないのか、ウマノスズクサが茂り、ジャコウアゲハの舞う時期にばっさり河川敷（堤防）の除草が行われるので、ジャコウアゲハのメスは丸坊主になった堤防上でウマノスズクサを求めてうろうろしている姿をしばしば目にし、かわいそうに思っていた。また、ウマノスズクサも弱ってきて漸滅している。そのうちにこの場所のウマノスズクサもジャコウアゲハも絶滅するのではないかと心配である。

そのような状況にあるので、この珍しい植物とチョウを保護するべく、一昨年の晩秋にウマノスズクサの地下茎を5センチばかり掘り取り、ならやまのベースキャンプの一隅に移植してみた。さいわい、これがうまく根付き、会員の有志がいろいろ世話してくださったので今では立派な姿に成長している。

そこで、この春、佐保川で細々と命を繋いでいるジャコウアゲハの幼虫を少しばかりならやまに移してみたところ、初夏のある日、立派なチョウになってならやまの園地に姿を現し、私たちを大喜びさせた。メスのチョウは早速ウマノスズクサに寄り添って産卵行動を始めたので、この場所が二世以下の故郷になること間違いなしである。ジャコウアゲハはこの付近では4月、6月、9月に成虫が現れる。今後が大いに楽しみである。

ちなみに、名前の由来は、ウマノスズクサは、花が馬の首に付けた鈴に似ているからと、また、ジャコウアゲハは、このチョウのオスの腹部から麝香のような香りを出すからと言われている。



ウマノスズクサ（中央は花）



ジャコウアゲハ（メス）

自然俳句欄

剣豪の眠る里山青田波

桜木 晴代

夏蓊おつむゆらゆら吹く風に

桜木 晴代

6月例会。柳生の里。青田波が印象的。田園には風の唄がある。
これからもご健吟のほどを。

青田波少年の日の村はづれ

川井 秀夫

仲の夏新陰流の正木坂

川井 秀夫

柳生にはふるさとの原風景が残る。隻眼の十兵衛に扮してチャンバラ
ごっこの日々が懐かしい。

新ジャガの実の偏差値や早堀りす

川井 秀夫

6月、四種の馬鈴薯を掘る。実は塊茎に豊か。大小の違いはあれど
収穫は上々。花が恨めしげに、「まだ早いぞ」と声なき声。

山清水千手千眼千光寺

川井 秀夫

7月例会。炎暑の中、元山上から鳴川峠を生駒越え。木陰道では
大汗が快汗となる。「千」を三つ並べて「三千世界」。遍く仏の
功德を願う。句は漢字の羅列、ちょっと邪道かな。

オオルリの美声いづくや京女

川井 秀夫

夏鳥の囀りが樹間に響く。素人には聞き分けが出来ず、残念至極。
「京女」はオオルリの異名。



ゴミを土に戻す魔術師カブトムシ

—やさしい昆虫講座（第10話）—

木村 裕

カブトムシと言えば皆さんよくご存知ですね。では日本には何種類、世界では何種類くらいいるかご存知ですか？ 日本ではカブトムシ、タイワンカブトムシ、コカブトムシの3種類ですが、世界には1300種類あまり記録されています。日本のカブトムシは最大で5 cmですが、南米に生息するヘルクレスオオカブトムシは角の先まで測ると13 cmあります。手の平いっぱい大きなものです。力強くて、脚の爪でしっかり捕まされると引っ張ったくらいでは離れません。たぶん手の皮が破れて血だらけになることでしょう。

よく目立つ角は頭と背中（胸部）にあり、大きさ、数、形は種類によってまちまちです。クワガタムシとの区別は分かりますか？ クワガタムシもいろいろな種類がいて、立派な角のような物を備えています。よく見てください。これは歯（牙）が変化したもので、口のところから左右に1対、前方に突き出ています。頭や背中には突起はありません。



カブトムシの仲間はみんな甘い物好きで、日本ではクヌギの樹液が主体ですが、南米や東南アジアの熱帯地方では、バナナ、パイナップル、サトウキビなどを主食にしています。

幼虫はどの種類も腐った樹、落ち葉、堆肥などの中に住んでいます。体色は白色～黄白色で、掘り出すと体を指輪のように丸める習性があります。柔らかく押さえるとたやすく

潰れるようにみえますが、表面は弾力に富んでいてしっかりしています。メス成虫が土の中に潜って小さな白いピンポン球のような卵を産みます。卵からふ化した幼虫は土中の腐りかかった有機物を食べて大きくなります。それゆえ、チップや堆肥は大好物です。

カブトムシの親戚はコガネムシです。カナブンやマメコガネ、ハナムグリなども角はありませんが親しいお仲間です。成虫の形は違っても幼虫はほとんどそっくりで、見分けはつきません。コガネムシの幼虫を後生大事に飼育し、カブトムシを夢みる人もいます。肥満児と思われる幼虫ならカブトムシに間違いないでしょう。



カブトムシの幼虫はチップ、堆肥、しいたけのほだ木の腐った物など、繊維質いっぱいの食事を腹いっぱいとり、食べかすは糞として土壌にもどします。一方コガネムシの幼虫はどちらかと言えば生きた植物の根が好物で、植木鉢の草花や苗木の根を食い荒らしてじわじわと首を絞めるように植物を弱らせ、最後には枯らします。それゆえ、家庭園芸愛好家からは嫌われています。な



らやま特産有機栽培のサツマイモのいもの表面が傷だらけになっているのは、コガネムシの幼虫がお先に失礼した痕です。モグラやオケラが犯人と思っている方もいますが、モグラが「濡れ衣だ」と怒っていました。

失礼しちゃうなア〜 ガッカリ!!

小田 久美子

滋賀県一乗谷は、携帯電話のパパ・カイ君のふるさとです。朝倉氏遺跡交流館で子育てしていた私の眼下に元気なおば様たちの賑やかな声。暫くしたら「この鳥何?」「綺麗やネエ 何? 何ていう鳥?」ワイワイ。この渋い色を綺麗と褒めて頂くのはいい気分ですが、私のことを知らない?うそでしょ!! 彼女たちから私の自慢の燕尾は見えなかったし、子供たちも見えなかったのですが。それにしてもこ



この子たちも
一緒に旅立ちます

の有名鳥をご存知ないとは・・・本当にガッカリです。「土食って虫食ってしぶ〜イ やだなア〜 ぶ〜イ ぶイ」この会の皆さんは判つて下さいますよね。ツバメが電線に止まっている姿はお馴染みですが、電線が無かった頃は どうしていたのでしょうか。『名所江戸百景』で広重が水路の杭に止まっているツバメを描いています。家も無かったもって大昔、ツバメたちはどんな所で巣を作り止っていたのでしょうか。



自然をちょっぴり いただきます〜す 西谷範子

7月になると何処からともなくあちこちに芽を出してくるスベリヒユ（スベリヒユ科）。8月は絶頂期で地を這うように広がり、6〜8ミリの5弁の黄色の小花を咲かせる。

茎は赤紫色で水分を多く含み、長円形の葉も多肉質。

大きな株をがさっと抜くと、一株でも充分なほど枝葉がある。

下の方の固い所を落として、全草食べられる。

山形の方では、夏野菜として重宝される山菜である。

ぬめりと酸味のある独特の食感があり、脂肪酸を多く含む。

やわらかい所をさっと茹でて使う。アクはないのでそのまま

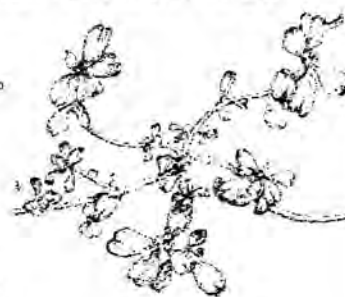
おひたし、サラダ、和え物にできるが、酢を加えた料理が合う。

さっぱりドレッシング、鰹節と三杯酢、梅醤油和え、芥子醤油和え、味噌汁やスープの実、特に酢味噌和えは絶品。納豆とまぜてもいい。

葉にぬめりが多いので、嫌な人は少し太めの茎だけを使い、酢味噌をかけて供すると酒の肴に持ってこいである。

利尿作用があり、葉をつぶした汁は虫さされに効くとか?

一度にたくさん食べると下痢しやすいが、それほど食べる事はない。



★キジママのその後 御所の畑で6月19日に卵を4個見つけ25日には5個になり27日にはキジママがしっかりと抱卵。ところが7月9日近くの電信柱の上でカラスが……。心配していたけれど13日もキジママがべったりと巣に。

今日17日4日振りに畑にいったら巣はもぬけのから……。卵の殻もない……。みんなどこに行ったの？孵化したらすぐ歩いて移動するのかな？殻は食べたの？

去年のようにサツマイモの畝の中からぞろぞろでてくるのかな？？だらけです。

(斎藤)

★15日竜田川河口で茶色い動くものが……。ネコ？イヌ？双眼鏡で見るとなんと子ダヌキでした。タヌキはここ何年か見なくなっていました。誰もいないので一人で見ていました。顔がユーモラスでした。

18日もういないと思っていた子ダヌキがまた出て来ました。今回は写真に撮れましたが、枯れ草などと保護色でした。帰ろうとすると、ゲゲゲゲ……とけたたましい声でキジが飛び出してきました。どうも、子ダヌキに驚かされたようでした。写真で見ると子？ダヌキかなです。でも土手にいる時は本当に小さく見えたのです。(勝田)



あゝ兄貴二本が伐られちゃった。まだまだ元気だと思っていたけど、自転車道へ倒れてバラバラだ。いよいよ私の番だ。根っこから扇形に三本に分かれて育った仲良し兄弟だったのに……。年なのか、それとも病気だったのかな、まだまだ艶のよい肌なのに悔しいなあ。仕方ない事なのでしょうが、消えて行く私の出生を誰かに知っておいてほしいのです。昔この近くの畑に通う翁がいました。まだ一人がやっと通れる位の道でした。竹や杉・蔦ばかりで殺風景な所でした。

翁が長いキセルで一服吸う度に、ちょっと花の咲く木でもあればホッとするのになあと思い、ヒョロっとたよりない私を優しく植えてくれました。

「山桜」の回想

竹本 雅昭

私達が満開の下で、おいしそうにおにぎりを頬張っておられたのが懐かしく思い出されます。その翁もいつからか見えなくなりました。ここから見える

所に何本か桜を植えてくださった様子。大勢の翁達のお世話を頂いて見事に咲いてくれるでしょう。高い所から見守ってます。

行事案内

※原則：前日午後7時前のNHK天気予報で、降水確率(午前)60%以上の場合は中止

※当会の行事における傷害事故等については個人負担とし、当会は賠償等一切の責任は負いません

『ならやま里山林プロジェクト8月・9月の予定』

場所 奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林 (JR 平城山駅下車徒歩10分)
—「ならやま会館」前の道路(ならやま大通り)の南側に広がる林地—

日時

8月 4日(木) 活動日
8月11日(木) 活動日
8月20日(土) 活動日(教育実習生受入)
8月25日(木) 活動日
8月28日(日) 「山と森の月間」公開イベント
(里山の自然観察&自然工作)

9月 1日(木) 活動日
9月 8日(木) 活動日
9月15日(木) 臨時山の日
9月17日(土) 活動日(教育実習生受入)
9月22日(木) 活動日
9月29日(木) 臨時活動日



集合 現地ベースキャンプ地 9時 終了予定 3時

交通 ①近鉄奈良駅 バス13乗場8:23発 高の原行 (平日・土曜)

②近鉄高の原駅 バス1番乗場8:32発 JR奈良行(平日)

8:30発 JR奈良行(土曜)

①、②とも佐保台西口、または平城大橋で下車 徒歩約7分

携行品など

・弁当、飲み物、軍手、(作業用具は現地で用意)、暑さ対策にご留意ください。

※環境保護のため、コップ・箸・碗などは各自でご持参下さい。

活動内容

- ・里山整備、環境整備、花木植栽等の景観形成、植生調査、椎茸作り
- ・復元した田畑での「旬の野菜・健康野菜の有機栽培」、堆肥作り、土作り
- ・「市街地にある里山」を体験する各種イベント、学校授業「田圃の教室」
- ・広域里山パトロール(保全、ナラ枯れ点検、生物調査など)

★ならやま・バードウォッチング

☆日 時：8月8日（月） 7：00集合

★集合場所：ならやま駐車場

☆小雨決行：判断の難しい時は担当者に問い合わせてください。

★担当者：小田 ・菊川

<8月度例会>

森林総合研究所 関西支所・樹木研修会

昨年の夏に開催致しました研究機関での「講演会と樹木観察会」を、本年度は京都伏見の独立行政法人・森林総合研究所 関西支所のご厚意で開催致します。講演会は①『里山』と②『森林』のテーマをお二人の先生に講義を賜り、「樹木園」では多様な樹木の観察会をご指導頂く予定です。皆様のご参加をお待ちいたしております。

日 時	: 8月29日（月） 午後1時より
集 合	: 近鉄丹波橋駅・東口出口前 午後12時30分
	・ 橿原神宮前<京都行急行>11：07…西大寺11：37…近鉄丹波橋12：11
	・ 天理<同上>11：32…平端11：38…西大寺11：50…近鉄丹波橋12：22
講 演	: ①「里山の保全と管理」 森林資源管理研究G 主任研究員 奥 敬一 先生
	②「最近の森林の管理方法」 森林生態研究G グループ長 奥田 史郎 先生
観 察 会	: 樹木園 ・ 樹木観察会 奥田 史郎 先生
担 当	: 阿部 和生 弓場 厚次

<9月の予定>

9月例会 「大和高原が眼下に広がる龍王山」

実施日：9月21日（水）

行き先：天理ダムから「龍王山・長岳寺」へ。歴史と健康の道

担 当：寺田 孝 塩本勝也（

※詳細は会報第116号（9月号）でお知らせします。

<9月度 オブション行事の予定>

東海自然歩道 額井岳山麓を巡る

戒長寺から室生・大野寺へ

(ぬかいだけ)

東海自然歩道は榛原・玉立橋から大和富士と呼ばれる額井岳の山麓を巡り、戒長寺では天然記念物指定の「お葉つきイチョウ」や「ホオノキ」の巨木を観察して室生湖へ向かいます。初秋の静けさを愛でながら室生湖畔から室生・大野寺へ辿ると、弥勒菩薩の磨崖仏が静かに迎えてくれます。高低差は少なく、気楽にご参加ください。

日時	9月27日(火) 午前9時集合
集合	近鉄榛原駅 北口バス乗場 (針インター行バス 9時12分発) ・ 大和西大寺(橿原神宮前行急行) 7:55…八木8:17着(乗換) ・ 上本町[地上](青山町行急行) 7:52…鶴橋7:55…八木8:34…榛原8:47着
コース	近鉄榛原駅(バス) 玉立橋…十八神社…山部赤人墓…戒長寺… 室生湖赤人橋…室生ダム…大野寺…近鉄室生口大野駅
担当	川井 秀夫 弓場 厚次

<10月の予定>

創立10周年記念行事

「木曽路一泊研修会」10月開催!

森林浴発祥の地

赤沢自然休養林へ

本年当会創立10周年を記念して、木曽路一泊研修会を開催します。

樹齢300年を越えた木曾ヒノキの天然大樹が残り、森林浴発祥の地といわれる「赤沢自然休養林」、白樺、カラマツ林に囲まれた日本で最も美しい村とされる「開田高原」を訪ねます。宿は、標高1026mにたたずみ、露天風呂から望む「御嶽山」が絶景の「木曾駒高原ホテル」です。

創立10周年を迎え、この研修会を多くの会員の方々相互の交流の場にしたいと考えています。特に、日ごろ活動に参加されていない皆様のご参加をお待ちしています。奮ってお申込み下さい。参加募集第一次の締切りは、8月20日(土)です。

1. 日時: 10月17日(月)～18日(火) 雨天決行
2. 行き先: 木曾福島 (第一日「赤沢自然休養林」、第二日「開田高原」)
3. 宿泊先: 木曾駒高原ホテル (長野県木曾郡木曾町新開 0264-23-7221)
4. 会費: 22,000円 (宿泊費一泊二食、バス料金、昼食を除く飲食費など)
5. 定員: 44名(先着順で締切ります。第一次締切り 8月20日)
6. 集合: 近鉄高の原駅西口 ロータリー道路脇 AM 8:00 (奈良交通大型バス)
7. 実行スタッフ: 実行委員長 阿部和生 幹事 寺田 孝 副幹事 藤田秀憲
アシスト 川井秀夫 弓場厚次 古川祐司 豊島すみ子

*参加申込み先: 寺田 孝

平成 23 年 7 月度幹事会報告

日 時：平成 23 年 7 月 5 日（火） 17：15～19：40

場 所：奈良市中部公民館

出席者：幹事 18 名、顧問 1 名 計 19 名

- (1) 現在会員数 134 名。（会費未納者 14 名）
- (2) 奈良県知事より表彰される。「奈良県環境保全功労賞」（6 月 22 日知事室訪問）
- (3) ナラ枯れ調査進展。全コナラ（1938 本）にナンバリング、樹径測定実施中。
- (4) 10 周年記念行事「木曽路一泊研修バス旅行」10 月 17 日・18 日、募集 8 月。
- (5) 会の愛唱歌「ならやまの歌」試作される。

表紙のペン画によせて

境 寛

一昨年、高島市の箱館山山上のピワコ箱館山ゆり園（標高約 650 メートル）にユリを見に訪れたときのユリです。冬のスキーグレンデは赤、黄、ピンク、白などカラフルに変身。天氣に恵まれ、気温はふもとより 3～4 度低く、眼下の琵琶湖は素晴らしい眺めでした。

ユリの園芸品種

今自宅の庭にはオニユリが咲き誇っていますが、欧米でのユリの品種改良は、19 世紀に日本や中国からヤマユリやカノコユリなどの原種が紹介されてからだそうです。日本では、江戸時代初期からスカシユリが栽培されてきた。

編集後記：＊連日暑い日が続いています。会員の皆様お元気で御活躍のことと思います。しかし、この暑さで熱中症の被害も多く報道されています。熱中症の予防には水分は喉が渴いてからでは遅いようです。チビチビ・チョコチョコと何度にも分けて飲むのがいいそうです。また、ハイキングや作業などで汗をかいた時は、水分、塩分だけでなく甘み成分が必要で、こんな時はスポーツドリンクがあうようです。＊会報発送作業・編集会議日：9 月号の作業は 8 月 24 日（水）午前 9 時から「西奈良ボランティアセンター」で行います。毎回多くの会員の方々のご協力をいただいております。暑い中ですが今回もよろしく願いいたします。

奈良・人と自然の会

編集担当：勝田 均

TEL&FAX

創立 10 周年記念 一泊研修会のご案内

実行委員長 阿部 和生

記

以上

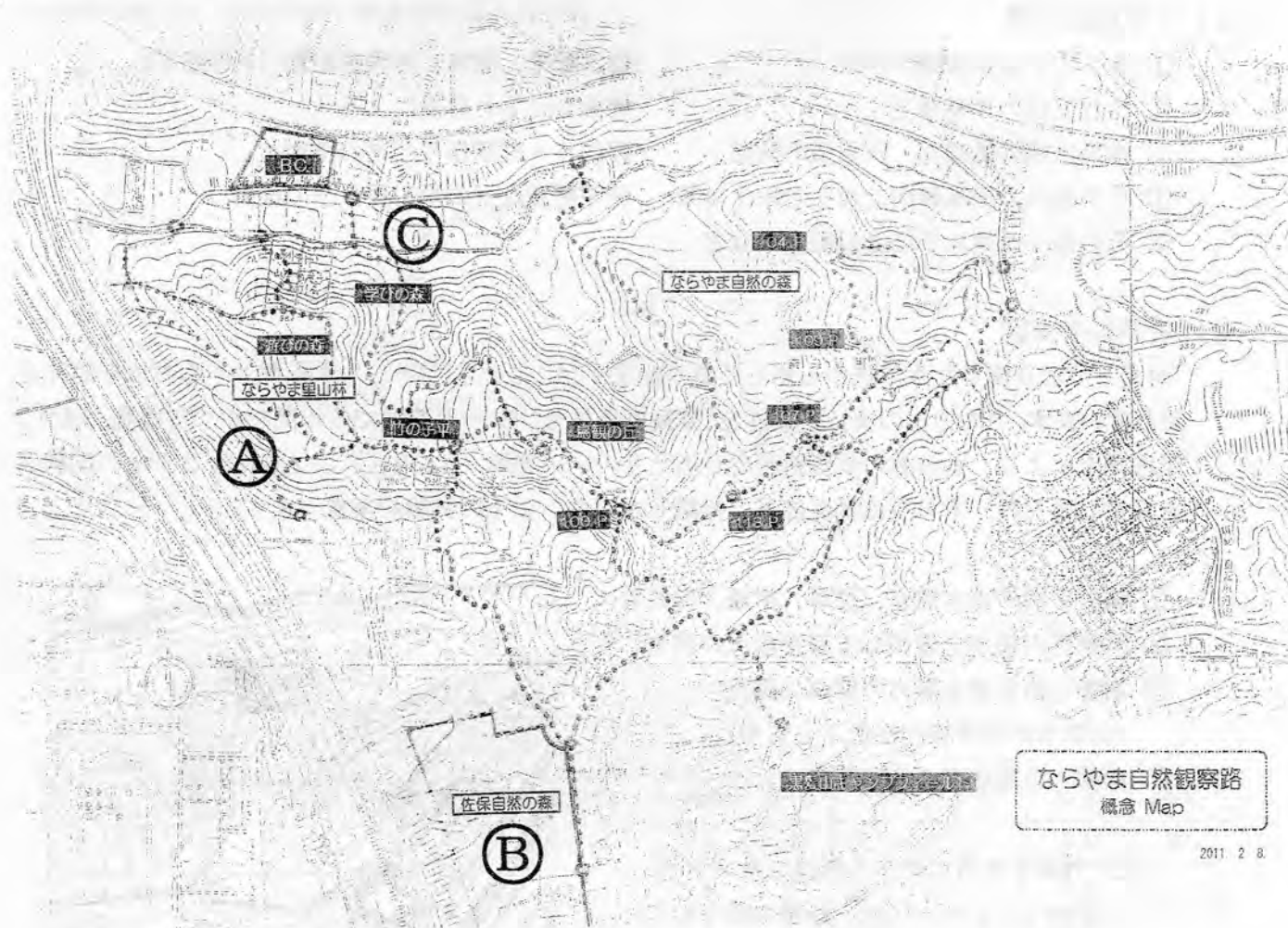
「ならやま」の3つの計画について

「ならやま」での景観環境保全活動は、ここ1～2年の間に、奈良県から委託される地域は倍増し、活動分野も多様になって来ました。このことはならやまプロジェクトがスタートして以来、着実に積み上げてきた実績に対する、社会の注目とさらなる期待の表れともいえます。

今年度は、里山林における「ナラ枯れ問題」という喫緊の課題への対応に加えて、全国植樹祭への協賛事業として「佐保自然の森植樹計画」、「ならやま彩りの森計画」3つの大きな事業を進めています。これらにつきましては折りに触れてお知らせしていますが、この機会に、これら3つの計画の概要についてご報告いたします。

会員の皆様におかれましては、一層のご理解を賜り、より多くの方々がご参加くださるようお願いいたします。

<ならやま 3つの計画の実施エリア>



(A) 「ならやま里山林」再生計画（ナラ枯れ調査と萌芽更新試験）

(B) 「佐保自然の森」植樹計画（生物多様性豊かな森づくり）

(C) 「ならやま彩りの森」植樹計画（自転車道沿いの景観づくり）

(A)「ならやま里山林」再生計画（ナラ枯れ調査と萌芽更新試験）

ならやま里山林の基礎整備はほぼ一段落しましたが、アカマツが松枯れで全滅し、残る主要樹種のコナラは老齢化が進目立っています。今後どのような里山林に再生すべきかを検討する中で、コナラのナラ枯れ問題が緊急の課題として浮かび上がりました。

ならやまプロジェクトでは、本年度から5ヵ年間を目処に、専門家のご意見などを伺いながら、「ナラ枯れ対策」と「コナラの更新」に本格的に取り組むことにしました。

幸いなことに、「ナラ枯れ対策」については、独立法人「森林総合研究所」のご指導が得られることになり、「コナラ林更新」については、奈良県森林技術センターと萌芽再生試験を協同で実施することになりました。この取り組みを行いながらナラ枯れ現象や対処法等について外部にも発信しつつ、ならやま里山林の健康な森作りを進めていきたいと思えます。

《施策の概要》

(1) ナラ枯れ対策

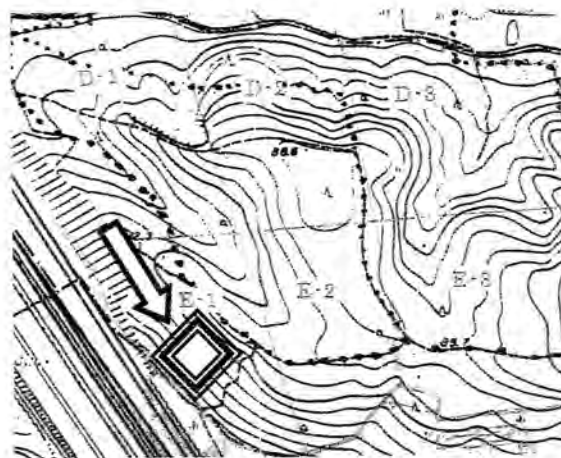
- | | |
|---------------------|---------------------|
| ① 全コナラ基本台帳の作成 | 樹木番号、樹径、形状を記録（7月完了） |
| ② 枯れ兆候の早期発見 | 捕虫シートと目視による |
| ③ 被災木等の処理法・利用法の開発 | 薪作り・菌類作りなどの検討 |
| ④ ナラ枯れの根本原因である老齢化対策 | 萌芽更新などの里山再生法の検討 |
| ⑤ その他ナラ枯れ予防法の調査 など | |

(2) 萌芽再生実験

萌芽とは切り倒した木の株から新しく芽が出ますが、これを利用して木を再生する方法を萌芽更新と言います。この方法の実行可能性を、奈良県森林センターと協同で5年間をかけて検証します。現地調査により、里山林の南西斜面の日当たりのいい場所（E1地区）に20m x 20mの試験区を設定しました。本年度は関係部署と協議しながら、以下の試験を実施します。

- ① 試験区内の全木調査（種類、樹径、樹高等）
- ② 試験区内樹木を皆伐して萌芽状況の調査
- ③ 樹齢と萌芽発生能力の関連の調査
（老齢木は萌芽能力が低下します）
- ④ 萌芽の生育状況の追跡調査

（注）昨年12月にテスト伐採したコナラ（直径25cm）には、旺盛な萌芽の発生が観察されています。（A地区）



萌芽更新の試験区（E1地区 No.13）

(B)「佐保自然の森」植樹計画（生物多様性豊かな森づくり）

地域の自然の再生・保全はどうあるべきか。私たちは、奈良県風致景観課のご支援と多くの方々からのご意見をいただき、この約1ヘクタールの土地を自然環境の変化に強く、「生物多様性豊かな森」として再生するために、以下の基本方針で活動してきました。

- (1) 生物多様性豊かな、明るい森を育てる。
- (2) 年中、花が咲き、実がなり、昆虫や鳥たちが生活できる空間をつくる。
- (3) 地域固有の種子を大切にし、現存の樹木や草は出来る限り残す。
- (4) 自然環境の変化に対応できるように、樹木間の競争関係を生み出し、同種の樹木であっても、異なる年令の樹木を植える。
- (5) 人工的な環境整備は出来る限り避けて、生物本来の環境適用能力を活用する。
- (6) 整備後も経過観察を続け、自然の保全・再生の推移を見守る。

なお、旧地名を大切にし、地域の皆さま方に大切にさせていただくために、「佐保自然の森」と名付けました。公開イベント「植樹祭」は、11月20日に開催される「第35回全国育樹祭」に合わせて実施する予定です。

<佐保自然の森 植栽計画・配置図&樹木別本数>



花木（高木）	本数	箇所	花木（低木）	本数	箇所	実のなる木	本数	箇所
①ヤマザクラ	5本	2	①ヤマツツジ	5本	6	①ナンテン	5本	2
②エゴノキ	5本	1	②レンゲツツジ	5本	2	②ビックリグミ	5本	1
③イロハモミジ	5本	1	③コバノミツバツツジ	5本	2	③柿	5本	1
④ヤマボウシ	5本	1	④アセビ	5本	2	④栗	5本	1
⑤シデザクラ	5本	1	⑤モチツツジ	5本	2			
総本数30本			総本数70本			総本数25本		

(C)「ならやま彩りの森」植樹計画（自転車道沿いの景観づくり）

(1) 概 要

里山美化活動の一環として「県道奈良西の京斑鳩自転車道沿いの植樹事業」を進めてきましたが、今回名称を「ならやま彩りの森プロジェクト」として、会の全体事業として推進します。

「ならやま活動地区の谷部」に、自転車道寄りには「やまさくら」南側山裾は「カエデ類」を植え、ならやま谷部の春、秋の季節により美しい彩りを添える事業です。（地図参照）

本年11月20日に全国育樹祭が奈良県で開催されるに当たり、その関連イベントとして奈良県とタイアップして実施します。

また、本年度の事業費用はその大半をすでに承認済みの「瀬戸内オリーブ基金」の助成により賄います。

(2) 事業の推進

① この事業を11月20日の育樹祭に合わせて行えるよう、準備作業を進めています。時間的余裕も少なく、かつ作業にはかなりのマンパワーを必要としますので、会の全員で協力しあう。

② 作業の円滑な推進のため、作業ごとにリーダーをおき、その指示にしたがって進めます。

作業リーダーは、総括：水本、ササ刈り関連：八木、樹木関連：森、真砂土・チップ関連：鈴木、マンパワー関連：古川、植樹関連：木村（裕）、塩本、の各氏です。

(3) 作 業

① 作業は植栽予定地の東側からササ刈りを開始し、西に向けて作業を進めます。樹木の間伐もこの作業に従って進めます。

② 3号地西端に残っているササ藪の刈り取りは、作業面での困難性、刈り取ったササの処分などから他の作業の流れを見ながら行います。

③ 既存の樹木、地盤状況を見て植栽場所の位置を決めます。

④ 植え床工事と植え床に使用する真砂土、チップ（外部から搬入）は所定の場所で混合し、指定箇所に仮置きし、そこから植樹位置まで運びます。（これらは業者に委託予定）

⑤ 植樹は、水路に沿ってカエデ類約120本、自転車道に沿ってヤマザクラ約30本、を約5メートル間隔で植え各木に支柱設置します。

＜ならやま彩りの森 植栽計画・配置図＞

